

遠州常民文化談話会 5月例会 5月19日(土) 13:30～ 於:中泉交流センター

5月19日(土)13:30から中泉交流センターで遠州常民文化談話会5月例会が開催されました。今年度は柳田国男著『日本の祭り』を輪読しながら、遠州地方の祭り、無形民俗文化財を実際に行い、保存伝承の努力をされている方をお呼びして、講話をいただくことを行っています。5月は磐田市(旧豊岡村)大平に伝承されます「遠州大念仏」について大平組元組頭、元遠州大念仏団理事の小木秀市さんに講話、報告いただきました。5月例会の概要を報告します。

小木秀市さん(遠州大念仏保存会大平組元組頭)「遠州大念仏大平組 大念仏の由来」

『御湯平の念仏』(昭和63年刊)の著者であり、遠州大念仏大平組でずっと大平の遠州大念仏をリードされてきたのが小木秀市さんです。当日、笛を手に、組頭の出で立ちで中泉交流センターにおこしいただきました。

現在も浜松、浜北で盛んに行われている遠州大念仏、そしてその統括団体でもある遠州大念仏団とも連絡、関係を持ちながら、旧敷地村大平に伝承されている大念仏を実際に行ってこれらました。江戸時代から継続され、四方差しがあり、回向のときに笛が入る等、浜松・浜北の遠州大念仏とは違った要素が明確にあり、独自の展開をしてきた大平の大念仏があります。また藤の木の根で撞木を作ることここ大平しか伝承されていないことだとういいます。初盆の家の行事とともに、信仰の伴った大平の大念仏が今後も継続、充実していこうことは、小木さんの話しから容易に想像がつかます。



講話される小木秀市さん

柳田国男著『日本の祭り』を読む

永井豪さん 「祭場の標示」 9～13

日本の二千六百年は「移住拓殖の歴史」だった。北海道、樺太、台湾、朝鮮へ同胞を分
から送り新たな村を創立した。地方における新たな祭場の設定が進み、「信仰の運搬」が
行われた。など、『日本の祭り』の「祭場の標示」の内容をまとめて報告してくれました。



発表される永井豪さん